



学校だより

第2号

令和4年12月23日発行

神奈川県立えびな支援学校

「コロナ禍に思うこと」

コロナウイルスがまん延して3年が経ちます。未知の存在で対応方法が見つからず、学校が長期間休校した時期に比べると様々な対処方法が発見され、学校でも多くの行事が工夫を凝らしながら再開されています。特に令和4年度に関しては、プールも再開され授業参観や遠足、修学旅行や校外学習等に取り組みました。また、よつば祭では、高等部3年の保護者の方のみとはなりましたが、参観していただくことができ、多くの行事を行うことができました。

子どもたちは慣れないマスクと格闘しながらも日々の授業に取り組み、元気に学校生活を送っています。マスクなしで生活し、制限なく様々な行事が行われることを願ってやまない今日この頃です。

(B 中学部長 岩崎)

A 部門高等部



A 高2年生は9月29日30日に、山梨方面に修学旅行に行きました。2日間とも天気に恵まれ、笛吹川フルーツ公園での散策や勝沼でのブドウ狩り、富士屋ホテルでの食事や宿泊を楽しむことができました。富士山を望む雄大な景色や部屋からの美しい夜景を堪能しました。また、よつば祭では、やきもの・アート・アグリ班での活動紹介や製品の販売を行いました。手ぬぐいの実演や会計でのお金のやり取り、商品の手渡しなどで、たくさんの人と交流することができました。それぞれが力を発揮して活動することができました。



B 部門小学部



小学部1・2年生は、10月に「ぼうさいの丘公園」に遠足で行きました。1年生にとっては初めての遠足です。お弁当を大事に抱えてバスに乗り込み、気分も上々で出発。みんな笑顔がいっぱいにあふれていました。公園に着くと、2つのグループに分かれて活動をしました。ふわふわドームに向かった児童たちは、元気いっぱいに跳び続け、遊びの丘に向かった児童たちはローラー滑り台やアスレチックを楽しみました。そしてお待ちかねのお弁当タイム。みんなで一緒に食べるお弁当は、とてもおいしかった様です。食後の自由時間には、広場で輪になってパラバルーン遊びをしたり、ゆっくりお散歩を試みたり。秋晴れの日を満喫することができました。



B部門中学部1年生



B中1年生は、みんな個性豊かで教室がいつも賑やかです。

「作業」ではトマト、とうもろこし、さつまいも、じゃがいも、人参など、様々な野菜を育ててきました。さつまいもの収穫後には、「家庭」の授業でさつまいもカップケーキを作りました。さらには、米作りにもチャレンジしてきました。苗植えでは手や足をどろどろにしながら気持ちを込めて植えました。また、自分たちで刈り取った稲を、“脱穀（だっこく）”“もみすり”し、玄米にしています。手作業での脱穀・粃すりは、とても地道な作業で、少しずつしか精米できませんが、3学期には玄米と白米でおにぎり作りも計画しています。野菜やお米を育ててきたことで、給食に興味を持ち始めた生徒も続出（！？）しています！



←トウモロコシ ↑脱穀の様子

B部門高等部3年生



コロナで何もかもが制限されてしまった学年でしたが、修学旅行の当日はバスガイドさんも驚くほどの晴天の中、出発することができました。「最高の思い出を作ろう」とスタートした修学旅行。どの活動場所でもみんな楽しそうに活動できていたのが印象に残りました。あるクラスの温泉入浴中の話では、クラス男子全員で露天風呂に入りながら「修学旅行最高だなぁ〜」と誰かの発した言葉に「最高だねえ〜」と相槌を打つ青春の1ページが作られたとのこと。宿では色々な部屋でガールズトーク・ボーイズトークが繰り広げられてみんな楽しい最高の思い出を作ることができたようです。きっとそれぞれに「最高の思い出」ができた修学旅行になったと思います。



地域連携係からのお知らせ



今年は、これまでコロナウイルスのため中止していた学校施設開放事業について、9月から毎週土曜日のみ再開することができました。少しずつではありますが、地域の方々との交流が戻ってきていることを感じました。

これからも、感染症対策を行いながら、地域の方々と連携・協力して学校活動をより豊かにしていけるように取り組んでいきます。